

令和元年度第1回ゼニガタアザラシ科学委員会 議事概要

令和元年7月19日（金）13：30～16：00

会場：札幌エルプラザ2階 環境研修室

議事1. 令和元年度（平成31年度）事業の実施状況について

○事務局より資料1-1「令和元年度事業実施状況（速報）」、資料1-2「本年度の取り組み内容」に基づき説明。また業者より資料1-3「平成31年度えりも地域ゼニガタアザラシ被害意識調査結果報告概要」に基づき説明。

◆主な意見等

<被害・漁獲状況について>

- ・定置網でのサケ・マス類とそれ以外の主要魚種の漁獲重量を魚種別に示してほしい。
- 定置網内のサケ・マス以外の魚の被害状況は丸呑みされたらわからないが、十数トンというレベルで獲れており被害割合としてはさほど高くないと思う。また、漁業者の感覚として、網に大量に魚が入っている状態だとアザラシはあまり見ないようだ。（事務局）

<忌避装置について>

- ・忌避装置を春に着けた定置の代表からは、長期間設置しても、その効果については難しいのではないかという印象とのことだ。（事務局）
- ・計画的に、どういうときに付ける・切る、音を出す・出さないなどあらかじめ決めておくと良いのではないか。理想としてはタイマー等で変則的なパターンでオンオフができると良いのではないか。
- 漁業者の感想としてはあまり効果がないのではとされているが、今秋漁獲量が多くなるだろうとの予想の中でもう一度効果を見た上で、それ以降の継続について、秋にこの場で提案させてほしい。（事務局）

<「本年度の取り組み内容」表について>

- ・いつまでに何のデータが出てくるのかを書いてほしい。

<漁業者被害意識アンケート調査について>

- ・世代によつての違いについては、データ上のバラつきが上手くとれておらず、傾向がはっきりと分からないというのが現状。（受注業者）
- ・これだけ貴重なアンケートを取っていただいたので、例えば漁獲量や被害について、どのような方がどういう意識であるというような丁寧な分析ができて、ではどういう解決の

道があるかということも、そこから追えるのではないかと思う。

- ・何がどう変わったら被害が少なくなったと感じるのかということも、訊いていただきたい。
例えば漁獲量が増えるのがいいのか、トッカリ食いが見えなくなるのがいいのか、網に付いているアザラシの姿が見えなくなればいいのかなど。
- ・アザラシの被害はある意味では自然現象だから、国が補償するというものではないかもしれないが、絶滅危惧種のアザラシとの共存を目指すという政策がある以上、その分は当然ケアしなければならないことになる。それを我々が今目指しているということを理解していただくことが大きな目標であると思う。次の5年間に取ったアンケートの回答の変化が、一つ大きな指標になり得ると思った。
- ・格子網を入れたときの効果や捕獲の方法など、今まで努力してやってきたことに対する評価もアンケートに入れてほしかった。次に向けて、科学委員会や、皆さんのグループと一緒に努力されているので、それが漁業者にも理解され、効果も出てきているということは本当なのかどうか、ということをお訊くアンケートを検討していただければと思う。
- ・次回5年後に取るアンケートで比較ができるようなものを考えていただきたいと思う。それに加えて、やはり被害軽減の指標を客観的に示せるようなものを、今から考えておいたほうがいいのではないかと思う。

議事2. 令和元年度（平成31年度）事業実施計画について

- 事務局より資料2-1「令和元年度（平成31年度）環境省えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業実施計画（確定版）（案）」及び資料2-2「モニタリング作業部会の検討状況報告」に基づき説明。

<シミュレーションの見直しについて>

（委員より追加説明）

- ・直近の観測個体数、捕獲・混獲数、換毛期の上陸割合推定値、混獲メス比率（5割→6割）、当歳に偏った捕獲個体年齢等を更新し、シミュレーションを見直した。
- ・単純計算では、2019年は80頭、2020年以降の4年間に40頭を獲るとすると、当初の目的の8割のところまでは到達することができる。
- ・運用上、合計280頭を獲るというブロッククォータ的な考え方で、120頭を先に獲って残り40にして安定すればいいが、実施上の問題でそれが不可能なら、キャリーオーバーというルールを運用しつつ目的を達成していく手もあるのではないか。

◆主な意見等

- ・今年できるだけ多く目標を掲げて、獲りきれない分は持ち越していくというやり方が現実的だろう。そのときに、0歳がどれぐらいであったかで、例えば0歳を親に対して0.何

個体分とみなすとか、そういう考え、表があるとわかりやすくなるように思う。

- ・去年から0歳の割合が高いが、これがもし4年5年続いたとすると、結果的に繁殖に参加する歳になった段階でかなりのインパクトが出てくる可能性がある。特にメスに偏って獲るようなことが起こったとすればなおさらインパクトが強い。そこは注意して見ていかなければいけないポイント。
- ・順応的に期中改定の可能性も含めて、管理実施の方策を立てるとするのがいいのでは。
- ・秋期途中に捕獲数80頭が達成されたとして、その段階でもう一度シミュレーションをかけて、翌年度に繰り越すのか、それとも今年でもう少し増やすのかというのを地元で説明できるのであれば、今の段階である程度数字を入れておいて、協議会に持って行って説明をし、皆さんの意見を聞いて修正が必要であれば修正するという方法もある。
- ・まずは本年度実施の計画なので、あくまで大型個体を獲るという意味で本年度80頭・次年度以降50頭という数字を入れさせていただき、この数字に関しては固定ではなく見直す可能性ということも含めて協議会でお話をしたいと思う。(事務局)
- ・ゼニガタアザラシ個体数が減っていないのではないかとこの浜の漁業者感覚からすれば、今回の捕獲目標では、浜への説明についてはその根拠をきちんと説明してもらいたいのかなと思う。

＜捕獲手法について＞

- ・例えば3分の1ぐらいになった段階で刺し網は止めるなどのルールを作っておいたほうがいい。
- ・春に獲ると、母親を獲ってしまう可能性があり、そうすると子供の生残がどうなっているのかが少し気になった。大量に獲るのであれば秋のほうがいいとは思いますが、秋の捕獲網を増やすことは可能なのか。
→漁業者との相談も必要だが、検討の余地はあるかもしれない。(事務局)
- ・捕獲網をもう少し増やして、しかも片方はランダムに、あっちに付いていたものが翌日にはこっちに付いているというような形でやらせれば獲れやすいと思う。協議会のときに、協力する方が増えれば、このように網をランダムにやる手もあると思う。
- ・これまで空気銃による捕獲試験をしていたと思うが、それについてはどの程度捕獲数を高められる、というような予測はあるのか。
→現時点では実施回数も少なく、あくまで試験段階というところ。ただ、網に執着しそうな大型個体の選択的捕獲という方法としては検討の余地がある。(委員・事務局)

＜水中カメラによるモニタリングについて＞

- ・今年も定置金庫網の撮影は実施している。解析を今年行うか複数年まとめて行うかは未定だが、継続してデータは収集している。(事務局)

- ・実際にやっていることなので実施内容としては資料1-2「本年度の取り組み内容」にしっかり記載しておいて、最後にいつデータを出すかというところで変えていけばいい。

<年齢査定・推定について>

- ・歯腔による年齢査定は今後も続けて実施する必要があるかどうか。やるならそれなりの予算付けが必要。今年はやらなくていいのかどうなのかを明確にしてほしい。
- ・我々にはモニタリングをして個体数の動向を見るということに加え、年齢や性比をはじめ獲っているものの状態をしっかりと把握した上で、想定している獲り方との乖離がないかということもしっかりと証明していく責任がある。
- ・具体的な内容についてはモニタリング作業部会のほうで議論できると思う。
- ・年齢推定について、同じ体長でも年齢のバラつきが大きいという状況が出ており、その誤差がこのシミュレーションにどの程度影響するのかがもう少し明確になれば、推定値のレベルを上げるなどいろんな方法があると思うが。
- ・成長段階では体長から逆算することが比較的容易だと思うが、高齢個体の年齢は多分わからない。資源動態を把握する上でそこを正確に把握することが必要ならばやらなければならないが、個体群動態の推測にあまり影響がないならやらなくてもいいのでは。
- ・未成熟個体の年齢査定は重要だが、成熟後も調べて生残率がわかるというところまでいくのはかなり難しいと思うので、亜成獣まではちゃんと調べて、高齢だとわかったらそれ以上は見ない、という方法もあり得ると思う。
- ・サンプリングについても、それをしないというのはいり得ないと考える。せめて頭骨の部分だけでも必ず取るというところが重要。それが誰かの負担になるのではなく、業務として必ずやっていただきたいと思っている。
- ・捕獲数が多くデータも多い0歳個体については、例えばヘソの緒の有無等、ある一定の基準を満たした個体に限って査定を行わないというような方法は検討できないか。(事務局)

- (決定事項) 科学委員会から保護管理協議会への助言として、『今年度の捕獲頭数について「80頭とし、2年目以後は50頭」を当面の目標として進めることが適当』とすることを一同了承した。

議事3. 次期管理計画の検討について

- 事務局より資料3-1「次期管理計画改定のポイント及び改定スケジュール」及び資料3-2「管理計画の評価及び次期計画への記載事項整理表(案)」に基づき説明】

◆個々へのコメント等

- ・②は「目的」を「目標」に書き換えているのか。

→言葉の整理をした。目指すものと、この管理計画が作られた目的は少し違うと考えており、長期目標がその目的にあたり、短期目標は、その計画期間内にどこまでやるかという目標を定めるのが良いと考えた次第。(事務局)

- ・長期の目的と、この期間内に何を実現するかという中短期目標を分けるのは良い。長期目標は目的でもいいのではないかと考える。
- ・(P 4、5について) 5年後までに2割減少を目指すということだが、もっと早く達成してしまっても構わないというニュアンスがあってもいいと思う。むしろ地元との調整で柔軟に変更することで彼らも手応えを感じていただけるのではないかと。
- ・(P 7「中間評価」について) 大事なことは個体数の調整としての目標が達成できたかどうかと、それで被害が減るかどうかという検証。この次期計画が始まってから2年間だけの評価というよりは、その前の4年間も含めた評価を行えばいいと思う。
- ・忌避装置についての記載は、秋まで試験してみて効果を見定め、それを踏まえての次の計画の話。「音波忌避装置等」などの言い方にしたい。(事務局)
- ・(P 9「キャリーオーバー」について) 計画より獲りすぎた場合は翌年減らすということでもいいと思っている。獲れなかった分を翌年まわしにするキャリーオーバーも、獲れてしまったら翌年減らすのも合わせて、管理計画に書いたほうが明確になるのではないかと。
- ・実施計画が8月以降になると、もし秋・春の定置網でも獲れなかった場合に、また刺し網で獲るのか、またはその分は次の年に持っていくのかという判断は、どこで誰がするのか。
→地元で柔軟に考えてもらって良いと思う。(委員)
- ・最初の3年間はあまり細かいことを書かず、「定置網で捕獲」というルールにしておいて、上手いかなかったらあとの2年間で調整できるのではないかと。
- ・今までと同じように捕獲をするが、定置網を使って、なるべく成獣の常習個体を獲れるようにするという文面さえあればいい。仮に達成できていなかったら獲り方自体をさらに検討する。
- ・一番重要なことは、個体数を減らすことよりも、漁業被害が無くなるということ。その部分が明確に書き切れているかどうか重要。
- ・前の計画からの課題は被害軽減の評価の指標が確立しておらず、アザラシと漁業の共存という目的を見失わないためにも必要。まず目に見える形で減らしてみても、被害がどうなるかを見るというのが、次期計画を通じて評価すべきことだろうと思う。絶滅の心配がない限り2割は減らしてもいいということになっているので、減らしてみようということがここに書かれていると理解している。
- ・「なお」から後の部分がブロッククォーター制という意味であれば、「当年次捕獲を中止するとともに」というのは不要であると思う。この部分に、柔軟に運用するというような意

味合いのことが書かれればそれでいいと思う。

以上。